

《目次》P1 第11回学術大会開催報告 P2 学術大会参加記 P3 学術大会発表報告・実行委員を経験して
P4 平成30年度秋期都道府県士会長会議・失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修
P5 やまなし吃音のつどい/成人吃音臨床研修会・山梨県民間病院協会研修会 P6 ふじやま便
P7 失語症者のつどい P8 やまなし地域リハケアの推進を考える会研修会・生活期リハビリテーション研修会
P9 学術講演会 P10 理事会報告 P11 各局からのお知らせ・編集後記

第11回学術大会開催報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第11回学術大会 大会長 小池 京子
(国立病院機構甲府病院)

平成30年11月25日に山梨大学医学部キャンパスにおいて開催いたしました、一般社団法人山梨県言語聴覚士会第11回学術大会は、初冬の素晴らしい天候と多くの参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。参加者が90名を超え、多くの方にご参加いただきましたこと心よりお礼申し上げます。

今大会のテーマである「言語聴覚士の本質～言葉を紡ぎ・未来を創る～」には、近年、社会制度の変化に伴い、言語聴覚士の役割が拡大していく中、言語聴覚士という職業の本質を見つめ直し、我々の専門性を一緒に考えたいとの思いが込められておりました。

そのような思いから特別講演には目白大学言語聴覚学科長の春原則子先生をお招きし、「言語聴覚士の本質～すべては幸せな臨床のために～」と題してお話いただきました。臨床と研究は切り離すことのできない組み合わせであり、言語聴覚療法の未来のためにも重要なことであることを学びました。そして何よりも、担当させていただく患者さんに私たちは育てていただいていることを深く感じ、胸が熱くなるお話を伺うことができました。教育講座では、甲州リハビリテーション病院の元木雄一郎先生、甲府城南病院の桂川謙祐先生より、「高次脳機能障害の評価とリハビリテーション」についてお話いただき、具体的な症状の診方を学び、明日からの臨床にすぐに役立つヒントをいただきました。また一般口演では、8名の先生方にご発表いただき、全ての口演とも座長が質問する時間がないほど、会場からの活発なご討議をいただきました。今大会が、言語聴覚士の本質を見直し、コミュニケーションを支える専門職であることを再確認でき、また新たな歩みにつながる機会となりましたなら幸いです。

今大会でも、例年通り行ったチャリティバザーでは、ご協力いただきましてありがとうございました。特に新たに加わったオリジナルクリアファイルは、ご好評をいただきました。事前にご協力いただいた施設紹介のスライドも各病院の特色が溢れ、職場の雰囲気がよくわかりました。賛助会員のご協力により企業展示も行われ、限られたスペースの中で、商品についてわかりやすくご説明をいただきました。

末筆ながら、特別講演、教育講演をお引き受けいただきました先生方、ご後援いただいた諸団体、発表者の方々、快くお引き受けいただいた査読委員・座長の先生方、そして日々の忙しい業務の中、大会の準備を行ってくださった実行委員長をはじめ、実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。



第 11 回山梨県言語聴覚士会学術大会参加記

甲府城南病院 松本 英之

平成 30 年 11 月 25 日に第 11 回学術大会に参加しました。今回は学生時代を含め 4 回目の参加となり、口述演題で自身の課題としていた質問も行うことができました。緊張しましたが、内容についてより深く考えることもできました。

午後の教育講座「高次脳機能障害の評価とリハビリテーションの実際」では、元木先生、桂川先生からコミュニケーションの専門家として必要な心構えや知識を付けることに加え、患者様自身や周囲の状況を見ることができる観察眼を持つ事が大切であると学びました。また、目白大学の春原則子先生による特別講演「言語聴覚士の本質～すべては幸せな臨床のために～」では、言語聴覚士は専門職でありその為には臨床の質を上げることが重要であること・出会いを大切に幸せな臨床ができるようにとのお話があり、私自身も言語聴覚士の本質や心構えを改めて見直す機会となりました。今回の学術大会で得られた学びや経験を今後の臨床に活かしていきたいです。



写真上段左から桂川先生、元木先生、小池大会長、春原則子先生、神田先生（開会宣言の様子）

第 11 回学術大会 発表報告

巨摩共立病院 依田 明子

平成 30 年 11 月 25 日に開催された山梨県言語聴覚士会第 11 回学術大会にて「言語発達にのみ遅れが認められた児への支援についての報告」という内容で発表をさせていただきました。今回の発表をまとめるにあたり多くの学びを得る事ができました。日頃の臨床でも、その都度お子さんの評価を行いながら、自分自身の支援の内容を検討してきました。しかし、発達の支援をおこなう小児領域では、経過が長いお子さんも多く、リハビリ開始から現在までを改めて振り返る経験は中々ありませんでした。今回の発表をまとめるにあたり、自分自身の臨床がどのような意義があったのか、また不十分な所は無かったらどうかと考える機会となりました。合わせて、今回の発表にあたり多くの先生方に指導をいただきました。自分一人では思い至らない視点をいろいろと教えて頂き今後の臨床の糧にしていきたいと思っています。最後に、今回このような機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。



第 11 回学術大会 実行委員を経験して

国立病院機構甲府病院 小松 富美子

今回の学術大会では、企画部部長として 2 回目の実行委員を務めさせていただきました。『言語聴覚士の本質～言葉を紡ぎ・未来を創る～』の大会テーマのもと、講師の先生のお話をお聞きし、今一度日頃の臨床や自分自身を振り返る有意義な機会となりました。

企画部が関わる活動としては、第 9 回学術大会でポスターにて行った施設紹介を、スライド形式にし昼休憩に上映したり、チャリティでは県士会のクリアファイルや第 11 回記念セットを作成したりと新たな企画を試みました。当日は本当に多くの先生方にチャリティにご協力いただきまして、ありがとうございました。



県士会クリアファイル



今回の企画部は、全員が初めて企画部に携わるという状況であり、運営に苦慮することもありましたが、小池大会長・高橋実行委員長・赤池オブザーバーをはじめ、実行委員の先生方のお力を借りながら大会の成功に向けて相談し、作り上げていきました。今回の経験は、今後の ST 人生をより良いものにしてくれる経験となりました。その一方で、反省点も多くありますので、次回に向けて改善していきたいと思えます。

最後となりますが、今回の学術大会の開催にあたり、ご支援・ご協力いただきました全ての皆様に深く感謝を申し上げます。

平成 30 年度秋期都道府県士会会長会議報告



湯村温泉病院 赤池 三紀子

平成 30 年 11 月 3 日（土）に朝日生命大手町ビルにて都道府県士会会長会議が開催されました。前年度からの 4 ブロックに分けたテーブル席にて深浦会長の挨拶、各部・委員会からは以下の通り、報告・説明などがありました。（写真はトイレ休憩で緊張から解放された束の間の笑顔の会長たちです。）

- 1.大阪北部地震、平成 30 年 7 月豪雨災害、北海道胆振東部地震への支援活動が報告され、状況に応じた人員派遣など平時からの準備の重要性が再認識された（災害対策部）。
- 2.来年の「言語聴覚の日」イベント共催は、佐賀県と東京都（広報部）。
- 3.今年度改定された医療保険の実態調査が初めて PT・OT・ST 協会合同の施設単位のアンケートとなるので施設代表者と連携のもと回答をお願いしたい（医療保険部）。
- 4.地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業は地域包括ケア推進コースが 27 士会、介護予防コースは 24 士会で修了者が出ている。また、地域リハビリテーション活動支援事業の事例報告のお願いがあった（介護保険部）。
- 5.全国研修会は学会翌日の大分、北海道・大阪が 7 月末、東京・福岡が 11 月末を予定している。実務者講習会（医療介護保険領域）と併せて貴会の会員に受講を勧めてほしい。専門講座用メールアドレスを用意したので意見も含め利用して欲しい（生涯学習部）。

この後の失語症者向け意思疎通支援者事業の報告では、次年度からの支援者派遣事業の展開が見えないため最も白熱した質疑応答がありました。また、12 月 10 日の衆議院本会議で議員立法の「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立しました。同法では、脳卒中や心筋梗塞などの循環器病の予防推進で国民の健康寿命の延伸と医療・介護費の軽減を目指すため、次年度以降には関連するリハ専門職にさらに期待がかかるでしょう。

今年も当士会は協会と結束しながら事業展開してまいります。

平成 30 年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修

甲府城南病院 吉澤 由香

平成 30 年 10 月 27 日、28 日に、失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修に河西事務局長とともに参加してきました。昨年度までは、各都道府県から 1 名ずつでしたが、今年度からは 2 名ずつの参加となり、会場は現在進行形で意思疎通支援者養成事業に携わっている方を含め、全国から集まった ST が、講義や休み時間を通じて活発に意見交換、情報交換をされ、大変活気溢れる 2 日間となりました。今年度より既に 11 都府県が意思疎通支援者養成事業を開始し、次年度は 15 県が開始予定であり、47 都道府県のうち、約半数の地域が始めることとなります。山梨県は、開始時期をはじめ、今後の事業構想は未定ですが、今回の研修を通じて、既に始めている地域の ST から、具体的なスケジュールや実習を行う上での工夫点等、大変貴重な情報を惜しみなく教えていただくことができましたので、いつ開始してもよいように、他都道府県士会との交流を通じて情報交換を図るとともに、伝達講習などを通じて万全の体制を整え、より早く山梨県でも始められるよう、働きかけていきたいと思っております。

「第2回やまなし吃音のつどい」 「第9回成人吃音臨床研修会 in 山梨」に参加して

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 河西 祐子

平成30年11月10・11日、NPO法人全国言友会連絡協議会主催の「やまなし吃音のつどい」と成人吃音臨床研修会に参加しました。言友会は「吃音があっても豊かに生きる」ための活動を全国各地で展開している、吃音のある方のセルフヘルプグループ（自助団体）です。山梨県にも吃音について語り合える場を作りたいとの思いから、当事者・ご家族・支援者向けの「つどい」と言語聴覚士対象の研修会が企画されました。「つどい」では体験発表やグループごとに意見交換が行われ、当事者やご家族の切実な思いにふれることができました。研修会では吃音の基礎知識や評価・訓練・支援方法について学びましたが、成人吃音について初めて知ることも多く大変勉強になりました。吃音当事者は様々な悩み、生きづらさを抱えて生活されており、周囲の理解、環境への働きかけや仲間づくりの必要性について改めて考えさせられました。

当県でもセルフヘルプグループ設立のための準備委員会が立ち上がりました。吃音治療に携わるSTは少ない現状であり、吃音についての理解、対応力を深め、当事者やご家族を支援していく役割が求められていると実感した2日間でした。

山梨県民間病院協会 PT、OT、ST 部会研修会に参加して

笛吹中央病院 山田 徹

平成30年11月28日に山梨県民間病院協会 PT、OT、ST 部会研修会が開催されました。

講演では「がんのリハビリテーション・基礎的知識と事例紹介」をテーマに、石和共立病院の太田昭生先生と甲府共立病院の山田洋二先生よりご講演を頂きました。太田先生の講演では、がんの疫学・病理・治療法・合併症など基礎的な知識をはじめ、がんの有害事象としてがんからの炎症性サイトカインによる身体活動・日常生活への影響など最新の情報を交えてご説明していただきました。山田先生のご講演では、がんのリハビリテーションは、患者の理解が得られにくいことや長期目標が設定し難いことが挙げられ、傾聴と共感など豊かなコミュニケーション技術を用いてショートステップでの対応が重要であると事例を通してご説明していただきました。私自身、臨床ではがんのリハビリテーションを実施していますが、リハ介入においては互いの信頼関係はとても重要であると感じています。今回の講演を通して、これまでの脳血管リハとは違った、がん特有の症状や心理・環境要因などを考慮し、STとしてコミュニケーションの支援にも専門性を発揮していく必要性を改めて実感しました。



上段：太田昭生院長
下段：PT 山田洋二先生

今号より、失語症友の会「ふじやま」の活動を定期報告するページです。

「ふじやま」は昨年7月7日、山梨県言語聴覚士会が設立し、その後も2カ月に1度の定例会を開催しています。STは毎回5~15名の協力をいただいています。今までに紹介用リーフレットを作成し、当会員施設をはじめ、保健所・地域包括支援センター・老人保健施設等へ送付し、昨年12月末の正会員は、当事者17名、家族5名の22名になりました。

今までの3回の定例会では、季節の催しや活動を通して、失語症のある方やご家族と直接交流するのでSTも大変勉強になる機会となっています。これからも多くのSTにご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

第1回:9月15日
「バーベキューとぶどう狩りを楽しもう！」
参加者 29名



◆失語症とは

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害によって言語に関係する大脳中枢が損傷されることで、それまで自由に使っていた「聴く」「話す」「読む」「書く」「計算する」ということばの機能が低下します。退院しても生活の中で次のようなことで困っている方も多いと思います。

- ✓ 家族・友人に失語症を分かってもらえず、交流が減少。
- ✓ 電話の対応が難しい。
- ✓ 1人での外出は困難であり、家族が付き添うことが多い。
- ✓ 役所や銀行などの公共機関の利用が難しい (ATM含む)。
- ✓ 家族は振り回され、生活が180度変わってしまった。

「失語症のある人の生活をしっかりと支える職員より」

◆失語症友の会とは

ことばは長い期間をかけて少しずつ回復しますが、人によって症状は様々であり、病前と同じように完全に回復することは難しい方もいます。

友の会は、このような同じ経験や悩みをもつ方やその家族が、親睦を図りつつ、日常的なコミュニケーション能力を高め、互いに支え合いながら、より良き生活を送れるようにすることを目的に設立しました。友の会は、失語症に伴って起こってくる問題に対し、皆で考え、支えあう場となっています。

友の会は、失語症のある人とその家族、言語聴覚士、医師、市町村関係者、ボランティア、その他の方々と手を取って活動を行なっています。

◆失語症友の会「ふじやま」は

山梨県内に勤務する言語聴覚士が失語症のある人や家族などと一緒に活動しています。平成30年7月7日に設立され、一般社団法人山梨県言語聴覚士会が運営しています。

◆活動内容◆

県内各地で定例会などを企画し、仲間作りを広げ、社会活動への参加を支援します。

- 定例会 2~3ヶ月毎に1回を予定。土曜または日曜の2時間程度。ブドウ狩りや新年会など。
- 山梨県失語症者のつどい 年1回。山梨県内の失語症友の会会員が集まり、合同で開催します。
- その他 勉強会、リハビリ講習会。

第2回:11月18日
「第23回山梨県失語症者のつどい」へ参加
参加者 18名



第3回:1月19日
「新年の始まりを一緒に祝いましょう！」
参加者 30名



「第23回山梨県失語症者のつどい」

H30年11月18日、大木記念ホールにて山梨県失語症者のつどいを開催しました。参加団体は、びょうどう川、峡北地区失語症友の会、山梨県言語聴覚士会失語症友の会「ふじやま」、また当日参加された失語症者の方もいらっしゃいました。当事者・家族・ボランティア・STを含めて60名程集まり、年に一度のつどいが盛り上がりました。

山梨県失語症者のつどいに参加して

甲州リハビリテーション病院 佐藤 綾美

今回初めて山梨県失語症者のつどいに参加させて頂きました。実行委員の皆様が様々なクイズやゲームを企画して下さい、脇役ながらも、参加者の皆様と楽しく過ごすことができました。

参加されている方もそれぞれ個性があり、自分から声をかけられる方、みんなの話を静かに聴いている方など様々でした。初めはお互いに緊張していて少しよそよそしさもありましたが、企画を通して交流するうちに徐々に打ち解けて、自然と自分のこと・相手のことを話し、伝えようとするようになっていました。そして、その輪が広がっていくのを間近で感じることができました。会場は、失語症のあるなしに関係なく、みんなが一緒に楽しめる空間になっていたと思います。

今回参加して、言語聴覚士の役割は、そのような場を作り提供すること、そして、地域全体をそのような場にするサポートをすることなのではないかと感じました。また、恥ずかしながら、県内にある失語症友の会の皆さんが、普段どのような活動をしているのか、今まで知らなかったので、今回どんな方たちがどんな活動をしているのか実際にみることでとても勉強になりました。皆様の明るい笑顔や生き活きとした姿を見て、気が付けば自分まで楽しく元気を頂きました。

病院の中だけでは経験することのできない充実した時間となりました。今後も機会がありましたら参加したいと思います。



●当日のプログラム●

- コミュニケーションワークショップ
- チーム対抗戦ゲーム
- 各友の会発表：テーマ四季
- 演舞：よさこい舞羽
- 武田節：詩吟・踊り（つどい ver.）

左上：甲州弁ラジオ体操 右上：「武田節」参加者の詩吟と踊り
左下：よさこい舞羽による演舞

各種研修会参加報告

やまなし地域リハ-ケアの推進を考える会研修会

山梨県立中央病院 中嶋 崇博

平成 30 年 10 月 17 日、医師会館多目的エリアにて開催されました、平成 30 年度やまなし地域リハ-ケアの推進を考える会研修会に参加させて頂きました。研修会では「ケアプランにおけるリハビリテーションとは？」と題してグループワーク形式にて具体的な対応や支援方法を他職種と議論しました。実際に課題整理総括表を用いて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護支援専門員のそれぞれの立場から、改善の可能性を視野に入れた支援方法の検討を行い、「介護支援専門員が知りたい情報は何か?」「リハビリテーション専門職がどんな情報を貰えると訓練に活用できるか?」と考えるととても有意義な時間になりました。地域での支援を考える上で、私たちリハビリテーション専門職は介護支援専門員等との多職種連携が必須になります。今後も多職種連携を通じて、山梨県の医療・介護・福祉の向上に貢献していきたいと思えます。



山梨県生活期リハビリテーション研修会

甲府城南病院 窪田 光

山梨県生活期リハビリテーション研修会が平成 30 年 10 月 20 日にぴゅあ総合、21 日に在宅支援センター甲州ケア・ホームで開催されました。1 日目の訪問リハビリテーション振興財団組織化班班長 阿部勉先生による『生活期における主体性を育てるリハビリテーションの実践』をテーマとした講義では、利用者さんに主体性を持たせた上で生活を支えていく事の大切さを学びました。また、2 日目には、多職種（歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）それぞれの視点で、『「食べる」を支える生活期リハビリテーション』について実践を交えた講義がありました。口腔内の事や姿勢・食事の仕方等もっとしっかり診なくてはいけない事を改めて感じました。

今回の研修を通して、いかに利用者さんに主体性を持たせるのか、どうすれば生活を支えられるかを常に考え、多職種との連携を深めていながら ST として日々の臨床に励みたいと思えました。



左：講師の阿部勉先生 右：講師の前田哲先生による食事の姿勢に関する実演

第2回学術講演会「発達性ディスレクシア—音韻の発達と障害を中心に」

甲州リハビリテーション病院 柴田 美貴子

平成30年10月12日に、上智大学の原恵子先生によるご講演に参加させていただきました。私は成人領域で働いているため、臨床現場では、ディスレクシアの方と関わる機会は少ないですが、正しく知識を理解することが必要であると改めて感じました。音韻発達について教えていただく中で、失語症の方の音韻障害と似ている部分も多く、先天的な症状と後天的な症状は別のものではなく、繋がりがあるということに改めて学ぶことが出来ました。

学習に躓きのある方は、なぜ自分だけ他者と違うのかと不思議に思う方も少なくないと思います。そんな時、自



分の特徴を知ること、障害された部分だけでなく、良い部分にも気づき社会でも活躍できる可能性があると感じました。そのためにも、成人小児関わらず多くの知識を身につけ、患者様のことを理解し、STとしてより良い支援が出来るように今回の内容を臨床に活かしていきたいと思います。



第3回学術講演会「姿勢が嚥下に与える効果を精密に考える」

山梨リハビリテーション病院 萩原 由香

平成30年12月21日に、健和会病院の福村直毅先生によるご講演に参加し、今後の臨床に活かすべき多くのご教示をいただきました。嚥下治療について、マズローの欲求5段階説に則った説明では、STとしての立ち位置と取り組む順序が明確となりました。まず、生命予後を考え、肺炎・窒息・低栄養を防ぐことが最優先であること、安全に食べることができたら、美味しく食べることがQOL向上につながるということがわかりました。先進国における肺炎死亡数年次推移では、日本だけが右肩上がりであること、肺炎死では、世界で日本が1番多いこと、日本の栄養提供量は先進国で最悪というデータには驚きました。さらにショックだったのは、院内発症肺炎では、誤嚥性肺炎が90%近くを占めるということでした。この数字を少しでも減少させるよう努めなければいけないと思いました。

全体像として機能を評価する際は、免疫力を含めて評価することが重要であることがわかりました。「免疫力を見積もりながら」というお話がありましたが、今後多くの経験を積み、勉強する必要があると思いました。嚥下を「多数の弁構造が存在する管腔を流体が流れる現象」とらえた動態嚥下学という概念がとても腑に落ち、咽頭容積に着目した完全側臥位や咽頭流路に着目した前傾座位が誤嚥を防ぐために非常に有効であることがその理由も含めて理解できたことは、とても有意義でした。嚥下障害の患者様が、可能な限りこの肢位をとれるよう、他職種とも連携を図る必要があると思いました。さらに理解を深めるために福村先生の講習会に今後、参加してみたいと思いました。



平成30年度 第5回理事会議事録

日時：平成30年8月24日(金) 18時36分～20時41分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、市川、桂川、小池、高橋、佐々木、元木、山田、吉澤、河西
欠席理事：池神、中嶋

<協議事項>

1. 県士会HPに失語症友の会「ふじやま」専用のページを設ける事となった。
2. クリアファイルを製作し学術大会のチャリティグッズとすること、抄録集を47都道府県士会に送付することが決定した。

<報告事項>

1. 第2回定例会討議会、小児領域勉強会の開催が報告された。
2. 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会第2回伝達講習会、3士会意見交換会、平成30年度第3回やまなし地域リハ・ケアの推進を考える会運営委員会の開催が報告された。
3. 県立図書館への献本並びにST協会ポスター「言語感覚の日」掲示依頼、ピブス納品が報告された。
4. 第2回山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会運営委員会、平成30年度山梨県地震防災訓練第1回関係者打ち合わせ会議への出席が報告された。
5. 第1回地域ケア会議推進メンバー養成講座の開催が報告された。
6. 第1回特別支援教育委員会研修会の開催が報告された。

平成30年度 第6回理事会議事録

日時：平成30年9月21日(金) 18時36分～20時40分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、山田、吉澤、河西
欠席理事：市川、元木

<協議事項>

1. ニュースレターを47都道府県、日本語聴覚士協会、事務局に各1部送付することが決定した。
2. 第11回学術大会のプログラム案が承認された。
3. 県士会チャリティグッズ(クリアファイル)については、広報部で製作し、チャリティでの販売方法は学術大会実行委員会に一任することが承認された。
4. 介護職場人材育成研修講師が高橋・佐々木理事に決定した。
5. 10月27・28日に開催される失語症者向け意思疎通支援者指導者研修会に河西・吉澤理事の出席が決定した。

<報告事項>

1. 第1回生涯学習プログラム基礎講座、第4回教育部院卒者研修会の開催が報告された。
2. 山梨県在宅医療多職種研究会世話人会、第23回山梨県失語症者のつどい第5回実行委員会への出席が報告された。
3. 山梨県リハ専門職団体協議会災害対策支援委員会研修会(HUG研修)、山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会研修企画運営委員会への出席が報告された。
4. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会認知症対策推進委員会第2回部会開催が報告された。
5. 「ふじやま」第1回定例会開催、リーフレット、入会申込書の作成が報告された。
6. 演劇採尺委員会、第1回査読委員会の開催が報告された。
7. 山梨県福祉保健階層健康推進委託事業「がんリハビリテーション研修事業」に関する委員会の開催が報告された。

平成30年度 第7回理事会議事録

日時：平成30年10月25日(木) 18時36分～20時29分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、元木、山田、吉澤、河西

<協議事項>

1. 代表者会議の日程が平成31年2月1日(金)に決定した。
2. 「失語症全国大会inおおい」へ「ふじやま」の広告掲載を行うことが決定した。
3. 第4回学術講演会の講師が山本直史先生に決定した。
4. 県士会ニュース特別に伴う印刷費の増額が承認された。
5. 第11回学術大会抄録集表紙が決定した。

<報告事項>

1. 第3回小児領域勉強会、第2回学術講演会、第3回定例会討議会の開催が報告された。
2. 平成30年度第1回地域包括ケア推進会議介護予防リハビリテーション促進院への出席が報告された。
3. いきいき山梨なみりんピックへの出展が報告された。
4. 生活期リハビリテーション研修会が10月20・21日に開催されたことが報告された。
5. 認知症サポーター養成講座の開催が報告された。
6. 第11回学術大会第3回実行委員会の開催、事前登録・懇親会申込書の送付が報告された。
7. 「やまなし地域リハ・ケアの推進を考える会研修会2018」の開催が報告された。
8. 平成31年度県政・国政への要望事項提出が報告された。

平成30年度 第8回理事会議事録

日時：平成30年11月21日(水) 18時37分～21時28分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、元木、山田、吉澤、河西

<協議事項>

1. 県士会ニュース43号企画案が承認された。
2. 「ふじやま」リーフレットを県士会HPに掲載し、各施設で活用していくことが決定した。
3. 平成30年度導入研修を平成31年1月26日、2月16日に国立病院機構甲府病院で開催することが決定した。

<報告事項>

1. 第4回小児領域勉強会、第5回教育部院卒者研修会の開催が報告された。
2. 平成30年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会、平成30年度関東圏都道府県士会第3回会議(一社)日本語聴覚士協会 平成30年度第2回秋県都道府県士会会長会議、第4回山梨在宅多職種研究会意見交換会への出席が報告された。
3. 平成30年度山梨県地震防災訓練への参加が報告された。
4. 第2回地域ケア会議推進メンバー養成講座開催が報告された。
5. 「ふじやま」第5回運営委員会、第2回定例会の開催が報告された。
6. 第11回学術大会実行委員会の事前申込状況、抄録集発送作業、第4回実行委員会の開催について報告された。
7. 一社)山梨県言語聴覚士会設立20周年記念式典第1回準備委員会の開催が報告された。

場所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議長：内山量史

書記：窪田 光、坪井沙妃、小澤しず香

議事録作成：河西祐子

《各局からのお知らせ》

事務局

<総務部>

・会員動向（平成30年12月末現在）

正会員数 144名 賛助会員 8団体

施設名称変更：健康科学大学クリニック

（健康科学大学リハビリテーションクリニック）

改姓：坂井（小澤） しず香先生

（春日居サイバーナイフ・リハビリ病院）

藤原（永塚） 朋美先生（甲州リハビリテーション病院）

会員名簿記載事項に変更のあった方は「会員異動届」の提出をお願い致します。届出用紙は県士会HPからダウンロードできます。

<財務部>

・12月末現在、7名の方が会費未納入です。年度内の納入にご協力をお願い致します。

学術局

昨年は、学術局主催の講演会・研修会にご協力いただきありがとうございました。本年もより充実した内容の講演会・研修会を企画できるように努めてまいりますので、ご参加の程、よろしくご申し上げます。

<教育部>

第6回新卒者研修会（平成30年12月13日開催）をもちまして今年度の新卒者研修会は終了しました。

<生涯研修部>

・第4回 学術講演会

日 時：平成31年1月25日（金）

会 場：ぴゅあ総合 大研修室

テーマ：「神経難病のコミュニケーション支援（ローテク編）

～患者様と共にコミュニケーション手段を探る～」

講 師：山本 直史先生（吉野内科・神経内科医院）

・第5回 症例検討会

日 時：平成31年2月21日（木）

会 場：甲府市東公民館

発表者：神田 絢子先生（甲州リハビリテーション病院）

バイザー：高橋 正和先生（石和温泉病院）

賛助会員の講義：カレイド株式会社

・第5回 小児領域勉強会

日 時：平成31年2月9日（土）

会 場：甲府共立診療所

内 容：「症例検討」

社会局

<渉外部>

・やまなし地域リハ・ケアの推進を考える会 研修会2018が10月17日山梨県医師会館にて開催されました。

・平成30年失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会が10月27日～28日に東京で開催され、河西事務局長、吉澤理事が参加しました。

・第2回都道府県士会会長会議が11月3日に東京で開催され、赤池三紀子副会長が出席しました。

・関東圏都県士会第3回会議が11月3日に東京で開催され赤池三紀子副会長が出席しました。

・山梨県民間病院協会 PTOTST 部会主催研修会が11月28日に甲府市総合市民会館で開催されました。

・その他にも関連団体や行政、地域との連携・協力に向けて会長、副会長、理事、会員が参加・協力しました。

<広報部>

・いきいき山梨ねりんピックが9月29日に小瀬スポーツ公園で開催され、県士会会員13名が参加し、ブース出展をしました。

・県士会広報グッズをとして、クリアファイルを作成しました。

<会報編集・ホームページ管理部>

・会報誌「県士会 NEWS」42号を発行しました。

・ホームページには県士会やST協会関連のイベントなど随時更新しております。また会員向けのお薦め情報など、旬な情報も随時提供していきますので是非ご覧ください。

編集後記

平成最後となる県士会NEWSも本号で43号となります。県士会NEWS初号の刊行は、平成14年までさかのぼるようです。平成14年という日韓共催でサッカーワールドカップが行われベッカムヘアが流行し、政界においては小泉構造改革と題して、様々な政策が始まったことを学生ながらに覚えています。また、鳥津製作所の田中耕一氏が青色発光ダイオードの発明でノーベル賞を受賞し、LEDが私たちの生活の一部となるきっかけとなる等、思い起こすと様々な変化があった一年だったと感じます。今年も新元号の公布、来年は東京五輪の開催も控えています。多種多様な場面で節目となる一年ですが、過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を創り出していきたいです。
（桂川 謙祐）

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会

<発行人> 内山 量史

<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集・HP管理部

石和温泉病院 南 曜子
恵信梨北リハビリテーション病院 坂本 楓
甲州リハビリテーション病院 間宮 愛貴
甲府城南病院 桂川 謙祐・河村 有美
堀内 賀子
巨摩共立病院 原田 佳
湯村温泉病院 岡 大樹
山梨大学医学部附属病院 赤池 洋

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
<発行日> 2019年2月1日 第43刊

やさしい聴こえのお手伝い



- 認定補聴器技能者在籍
- 試聴器の無料貸出
- 支援法補聴器取り扱い

写真：シグニア補聴器 スタイレット 充電式



認定補聴器専門店

山梨リオン補聴器センター

甲府店 ☎ 0120-29-3321 玉穂店 ☎ 0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 T-ウエスト

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。



Atos
Atos Medical Your voice

株式会社アトスメディカルジャパン

〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

HEALTH CARE FOOD
在宅 通信販売

Healthy Network



病院で使われている介護食を
ご家庭にお届けしています。

- ☑ 噛むこと、飲み込むことが苦手な方に
- ☑ 飲食時によくむせる方に
- ☑ 食の細い方に

やわらかさの程度や形態別に分類されたおかず、
とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載
されています。また、栄養指導で
役立つコラムも多数ご紹介して
います！

とろみ調整食品は
トロミパワースマイル
がオススメ！

カタログのご請求・お問い合わせは

〒191-0024

東京都日野市万願寺1-34-3

株式会社ヘルシーネットワーク
0120-236-977 受付時間 9:00~17:00※日・祝除く

ヘルシーネットワーク 検索 <http://www.healthynetwork.co.jp>

ヘルシーフード 検索

かきまぜても離水しにくい新しいゼリー

まぜても ジュレ

従来のゼリーにはない特性を持った
リセットゲルになります

- クラッシュしても離水しにくい
- 再結着性(まとまり)がある
- よくかきまぜるととろみ状になる



foodCare
JAPAN

〒252-0143 神奈川県相模原市 緑区橋本4-19-16 OMGビル
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444



おいしく、たのしく、嚥下リハビリのお手伝い

摂食嚥下リハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

<p>毎食頂く毎に楽しめる 10種類の味</p> <p>エンジョイゼリー プレーン いちご コーヒー チョコレート あずき味 バナナ味 さや 抹茶 スイートポテト味 りんご味</p>	<p>個別の栄養状態に合わせた 食べやすさ</p> <p>エンジョイカップゼリー</p> <p>いちご味 キャラメル味 あずき味 コーヒー味 りんご味 マンゴ味</p>	<p>原産地を指定される40g</p> <p>エンジョイ ハイカロリーゼリー</p> <p>りんご味 もも味</p>	<p>とろみの食の向上とはやさしい</p> <p>とろりんこ quickly</p>
--	---	---	---

他にもおいしく栄養が摂れる、豊富なラインナップがそろっています。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。
☎ 0120-52-0050 [クリニコ] 検索 <http://www.clinico.co.jp>

産別乳業グループ栄養機能部門
株式会社クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-Sal



Pepti-sal(ペプチサル)とは、

「Peptide (ペプチド)」+
「Saliva (唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、
お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方のケアにもおすすめです。

2014年12月発売



T&K ティーアンドケー株式会社

☎ 0120-555-350

www.comfort-tk.co.jp



「医療専門家 × 医療機器ベンチャー × フードケア」
連携の新しい会社「カレイド株式会社」

何気ない普段の「おいしい、もぐもぐ、ごっくん」の三拍子が、
上手できない方々への「あきらめない」を応援したい。

3年目のカレイド、そして

「ジェントルスティム(干渉電流型低周波治療器)」を
よくお願いいたします。



オーエムジープファミリー QOL(生活の質)を支える「食事・嚥下ケアカンパニー」として日本から世界へ

「ケア食」で毎日を楽しむ
株式会社 フードケア
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444

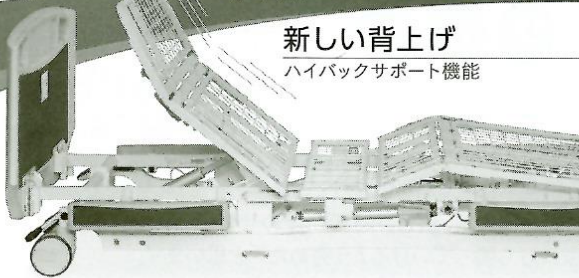
「ケア器」で毎日を支える
カレイド株式会社
TEL: 042-700-8830 FAX: 042-700-8840



誤嚥リスクの低減

新しい背上げ

ハイバックサポート機能



P300
シリーズ

医療・介護ベッドメーカー

株式会社
プラッツ
<http://www.platz-ltd.co.jp/>

■関東支店 / 関東ショールーム

〒105-0014 東京都港区芝2-16-9 芝YSビル3F

TEL.03-5427-8033 FAX.03-5427-8031

■福岡本社 ■北海道 ■宮城 ■東京 ■愛知 ■大阪 ■広島